

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の意向を最優先した、利用者中心のケアを目指している
	内容	認知症対応型通所介護「陽だまり」では利用定員も職員も少数人数なので、顔馴染みの関係の中、ゆったり落ち着いた時間を過ごしている。職員は有資格者（介護福祉士）が大半で、利用者個々の特徴を理解した上で、利用者の尊厳を大切に意向を最優先した個別的かつ専門的な支援を行っている。職員アンケートからは「目立たない利用者にもより注意を」「利用者一人ひとりについてのカンファレンスを、もっと頻回に」「羞恥心への配慮をさらに」などの声が寄せられ、利用者中心のケアを目指す姿勢が窺われた。
2	タイトル	様々な取り組みは利用者の生活の幅を広げ、より豊かに彩っている
	内容	個別支援による外出活動では、地域の公共施設や商店へ出向き、利用者自身で買い物を楽しめる体制をつくっている。また季節に応じた毎月のイベント、日々のレクリエーション、クラブ活動等、様々なアクティビティが準備され、利用者は自身の心身状況や意向に沿って選択できる。さらにボランティアや介護等体験の学生や近隣の小学生、保育園の幼児等がいつでも来所できる体制を構築しており、地域の方など職員以外の他者との交流が来ている。これらの様々な取り組みは、利用者の生活の幅を広げ、より豊かに彩っている。
3	タイトル	サービス向上を目指した様々な取り組みで、実践的な人材育成ができています
	内容	「陽だまり」は「南町田ちいば会」という法人の在宅部門に属しているが、法人内は多くの他部門を有している。そのため法人内部部門別に目標・課題を明確に掲げており、委員会活動も活発で、内部研修は年間を通して企画実践されている。また本部会議、チームリーダー会議、グループ会議及び各委員会などで、多部門・多職種が参加して検討し連携を取りやすくしている。さらに地域では通所介護事業所連絡会、他事業所との協同開催による研修会を開催し、各事業所の課題や検討事項について話し合える場が多くあり、実践的な人材育成ができています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	調理の過程に利用者が参加する「食の工夫」計画に、大いに期待したい
	内容	今年度の事業計画の一つに「食の工夫」があげられている。これは食事を作る過程に利用者が参加することで、利用者のモチベーションを高め認知症進行防止へつなげると考えるためである。現在も施設内で収穫した野菜を使ってのミニクッキングなどおこなっているが、計画している取り組みは、ご飯の炊きあがりやみそ汁の匂いを楽しみながら、利用者同士での協働作業を想い描いている。この実践により利用者の生活感覚を刺激し、コミュニケーションが円滑となり、さらに自立を促すことにもなるため、取り組みの実現に大いに期待したい。
2	タイトル	手引書を定期的に見直し、事業所の貴重な経験値の反映が望まれる
	内容	職員自己評価では、「手引書の整備」「事業所の標準的な業務水準見直し」について厳しく評価している。一般的な介護技術とは異なり、個々の対応を手引書に落とすことは難しいと想定されるが、事業所では対応困難な事例について、グループ会議等で検討を繰り返し、利用者情報の共有を図っており、さらに介護支援専門員との密な連携などの蓄積がある。これらの貴重な経験値を、議事録や利用者の個人記録に残すだけでなく、抽象化・一般化していく努力を積み重ねることで、「陽だまり」独自の手引書の整備が進み、サービス向上にも繋がるかと思われる。
3	タイトル	管理者は、リーダーへの信頼と職員全員への期待をもち、さらに育てようとしている
	内容	管理者のリーダー（チームリーダー、グループリーダー、生活相談員）への信頼は厚く、権限を委譲すると共に、更にステップアップすることを期待している。具体的には現状の業務に捉われないこと、職員指導や事業所の方向性を明確に示し導いてくれることを望んでいる。さらに職員全員には、利用者の理解と情報共有ができていくことについて、対外的にもきちんと対応でき、クレーム対応や事故防止に対応・改善するだけでなく、運営的見地も含め職員全員がその意識を持つ事業所にしていきたいと考えている。この職員を育てる姿勢に期待したい。